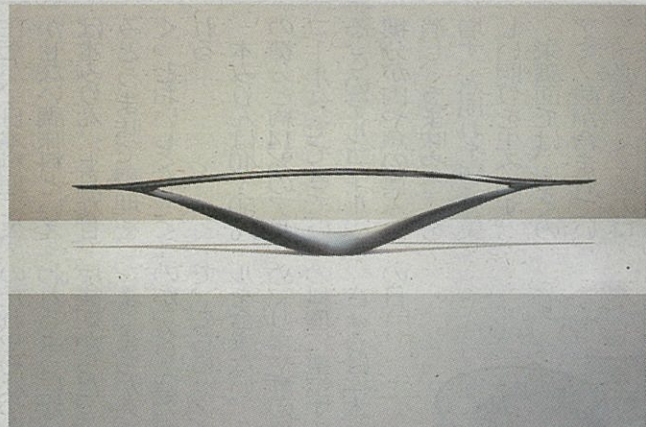


文化・芸術



「シルエントーちかちかへー」

2018年、漆、ホオ
133・0cm×7・0cm×22・0cm

村田佳彦 (1977年)

黒漆を丁寧に塗り重ね、ゆっくと乾燥させることによって、半つやの落ち着いた塗膜に仕上がる「塗立(ぬりたて)」の技法。村田佳彦さんは学生時代、この塗立の黒を初めて見たとき、まるで「かげ」のようだと感じ、以来この「かげ」も作品のコンセプトになったといえます。

なめらかな曲線、しつとりとした黒の質感、そして寄り添うような影。そのたたくまいに吸い込まれてしまいそうな作品です。本展では、桐生が岡動物園の新たなシリーズが加わった展示となりました。再会の地・桐生で、これまでになりにアップローチの作品が生まれようとしています。

《名画の扉》

大川美術館企画展「桐生のアーティスト2022 Natural Mind and Natural Color in KIRYU」から

は、能登を訪れた際、日本海に沈んでゆく美

(小此木)